

(2) 供給の現状と見通し

全国における農業を取り巻く情勢は、担い手の高齢化や減少、輸入農産物等の増加等によって厳しい状況にあり、今後、経営の規模拡大や施設設備の高度化による生産の合理化等、地域の実情に応じた多様な取り組みによる生産の維持・拡大が図られるものと思われる。

漁業においても、近年、漁業就業者の減少や高齢化、輸入水産物の増大等による価格の低迷、資源の減少等によって厳しい状況にあるが、増養殖技術等の進展により、今後はさらに計画的な生産出荷体制の確立が進むものと思われる。

これらのことから、生産、出荷単位の大規模化が一層進行すると思われる。

また、輸入農水産物等については、輸送技術の高度化等の品質向上に向けた取り組みが図られることにより、これからも増大してくると思われる。

このような中、本県における品目別の供給の現状と見通しは、次のとおり見込まれる。

ア 青果物

(7) 野 菜

本県の野菜は、国の指定産地、県の指定・特定の作目を中心として適地適作を基本に産地づくりを推進し、生産条件の整備、集出荷施設の近代化、生産組織の育成強化等の総合的な施策を進めた結果、全国有数の野菜生産県となった。

一方、野菜生産農家の高齢化や担い手の減少に加え、長引く景気低迷や輸入野菜の急増、消費動向の低価格化志向への変化など、野菜の生産・販売・流通をめぐる環境は大きな変革の時期を迎えている。

こうした中、生産量の見通しは、平成10年の生産量362,962トンが、平成22年には約393,000トンと若干の伸びが見込まれる。

(1) 果 実

本県の果実は、スイカ、メロン等全国でも有数の生産量を誇っており、地域の特性を生かした産地づくりと消費者ニーズや外国産地の動向等を

踏まえた安全かつ安心で高品質な生産を進めている。

ここ数年、主要品目のみかん、スイカ、メロン等の栽培面積が減少しているが、デコポンやイチゴ等については、今後、生産増が期待できる。

こうした中、生産量の見通しは、平成10年の生産量 361,491 トンが、平成22年には 368,000 トンとわずかな伸びが見込まれる。

イ 水産物

本県の水産は、有明海、不知火海及び天草西海の三海域において、それぞれの特性を生かした多種多様な漁業が営まれている。また、有明海におけるのり、不知火海、天草西海の魚類をはじめとする養殖業は、本県の漁業生産量の約7割を占め、全国的にも高い地位にある。

しかし、漁業就業者の減少・高齢化、輸入水産物の増大等による価格の低迷、資源の減少等、漁業を取り巻く環境は厳しさを増すものと予想される。

ウ 食 肉

本県の畜産は、肉用牛・乳用牛などを中心に経営規模の拡大を図りながら、我が国有数の畜産県として発展してきた。

こうした中、家畜の改良増殖や飼養管理改善による品質向上、自給飼料の生産拡大、環境対策や価格安定対策による経営の安定、経営支援体制の整備によるゆとり創出などを推進する。

出荷量の見通しは、平成10年の出荷量 622,000 頭が、平成22年には 735,000 頭と大きな伸びが見込まれる。

エ 花 き

本県の花きは、豊かな自然条件を生かした多様な生産が行われ、産地化が図られた結果、キクや宿根カスミソウなど全国有数の品目もみられるようになってきた。

こうした中、消費者の需要を背景に、生産量は他作物からの転換や新品目の育成などにより増加が見込まれる。

切り花については、平成10年の生産量 167,131 千本が、平成22年